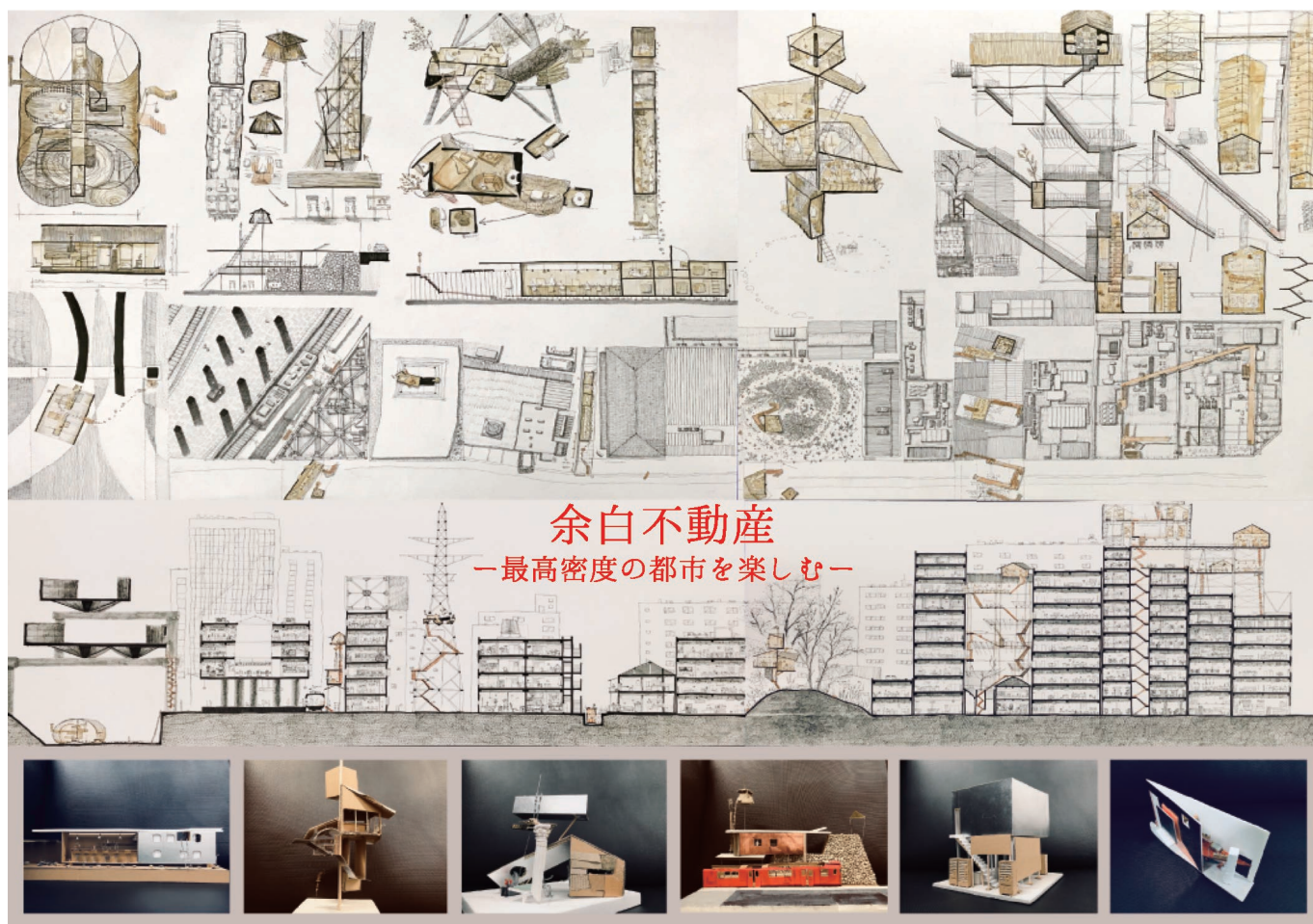


名城大学建築同窓会会報

●発行/2020年4月1日 ●編集/名城大学建築同窓会会報委員会

No.148



最優秀賞(雑誌『近代建築』別冊掲載作品)

余白不動産～最高密度の都市を楽しむ～ 半澤 龍

INDEX

会長・学科長あいさつ……………1・2	建築学科教職員……………6	平成31年度事業計画……………8
情報交流会……………3	就職情報……………6	平成31年度予算……………8
支部だより……………3～5	平成30年度事業報告……………7	会則……………9
キャンパスニュース……………5	平成30年度決算報告……………7	表紙・裏表紙解説……………10
同窓会ホームページ……………6	平成30年度会計報告……………7	令和元年度役員……………10



建築同窓会会長

下地 康夫

(昭和47年卒)

建築同窓会会員の皆様方におかれましては、日ごろから同窓会活動にご理解とご支援を賜り深く感謝申し上げます。

私は会長職を引き受けて2年が過ぎようとしています。これまで各支部も含め建築同窓会をはじめとして、理工同窓会、及び、校友会の行事などに参加してまいりました。そこで感じたことは、それらすべてにおいて高齢化が顕著であると感じ、私としては今後の校友会、各同窓会の行く末に危機感を感じています。何とか若返りも図りながら、同窓会のますますの発展を図りたいと苦慮しています。大学とも連携を図りながら同窓会教育も必要ではないでしょうかと考える今日この頃であります。ぜひ皆さま方の知恵をお借し下さい。感想なども聞かせ願えればありがたいことであります。

それでは、令和2年度の主な事業として、1.会報発行(2000部)・HPの更新・名簿の追加、訂正 2.情報交流会(6月6日(土)名城大学天白キャンパス開催予定) 3.学内行事への参加と協力支援・協賛等で同窓会と学内の連携強化を行う事としております。行事の詳細は、HPに随時掲載していきますので、是非とも閲覧していただき、行事への積極的参加をお待ちしております。

特に本年度は情報交流会において、現役学生を対象に新しい試みとして就職支援企画を検討しています。本企画のメリットとして、学生にとっては早い段階で各職種に対して情報が得られる。卒業生にとっては自社のアピールが出来る。そして、何よりも、この企画を通して、卒業生が同窓会に参加するきっかけになることを大いに期待しています。

ノーベル賞の受賞や女子駅伝の連覇等、発展を続ける名城大学を大変誇らしく頼もしく感じられる昨今であります。より大学の発展に貢献できるように、今後も、より開かれた参加しやすい、同窓会を目指して頑張ってまいります。そして、これまで実施してきた各事業を常に検証し同窓会の絆が一層深まるよう努力してまいります。ご支援、ご協力をお願い申し上げます。



建築学科長

高井 宏之

名城大学建築同窓会の皆様におかれましては、平素より建築学科のためにご支援を賜り厚く御礼申し上げます。私、この4月より二度目の学科長を拝命しました。来る2年間、何卒よろしくお願い申し上げます。

まずは学科の人事の近況から。昨年4月に、吉久光一先生が学長としての4年の任期満了ののち教授に復帰されました。またこの4月に、鉄筋コンクリート構造の第一人者である市之瀬敏勝先生が教授として着任されました。ここ数年、本学科の教員は大きく入れ替わり一層の充実。これまで以上に質の高い教育を学生に提供すると共に、社会貢献できるような研究や設計活動に邁進していく所存です。

さて、令和2年度は大きな節目の年になりそうです。第一は建築士法の改正であり、大学を卒業した直後の7月に一級建築士試験を受験できるようになりました。これに対し名城大学では、正規科目外の全学のエクステンション講座に、外部講師による一級建築士試験コース(大学院生・卒業生も受講可)を新設。3年生後期に初級(計40時間)、4年生前期に中級(計110時間)を開設し、少ない費用と時間的負担で、卒業後早期の資格取得に向けた道ができました。名城大学卒業生は「全員実力があって一級建築士も当たり前」の時代が来ることを願っています。

第二は最近の2つの出来事です。一つは去る1月上旬にテレビでも報道のあった、建築学科教員のいる研究実験棟Ⅱでの刑事事件です。心配された卒業生や御父母もおられたと思いますが、建築学科に直接関わりはありません。ただ、いかに教員が学生と向き合い確たる信頼関係を築くか、改めて考えさせられる機会となりました。もう一つは新型コロナウイルス問題で、この原稿執筆の時点ではまだ収束の兆しはありません。公衆衛生上の課題もさることながら、中国のこれまでの経済発展の勢いが失速しないか、それが日本経済、ひいては学生の求人状況に影を落とさないかなど、心配の種は尽きません。

しかしながら、昨年10月の本学の吉野彰教授のノーベル化学賞受賞、12月末の富士山女子駅伝の2連覇など、名城大学にとって誉れ高い出来事も多々あり、また今後もたくさんの吉報が期待できます。引き続き、同窓会の皆様方の益々のご活躍を祈念しますと共に、今後の建築学科の一層の発展にご支援を賜りますようお願い申し上げます。



令和元年度情報交流会

第25回建築同窓会情報交流会が「母校との絆」を合言葉に、去る令和1年10月16日(土)に名城大学ナゴヤドームキャンパスにて実施されました。昨年の天白キャンパスから移動し初のドームキャンパスでの開催となりました。講演会では佐藤先生による「地域の建築文化の継承と暮らしの再考」についての講話があり、改めて東日本大震災の復興がまだまだ道半ばだと言う事を認識する機会となりました。懇親会では講演会に引続き現役の建築学科生も20名程参加を頂き、OBの方や来賓の先生・恩師の方々と和やかな雰囲気の中、親睦を図る姿が見られました。

今後も卒業生のみならず学生との交流が図れる場として、色々な嗜好を凝らし有意義な会となるようにして行きたいと考えますので、会員の皆様の御支援をお願いします。

名城大学建築同窓会会報委員会



▲講演会



▲講演会



▲会長挨拶



▲祝辞



▲乾杯



▲懇親会



▲懇親会



▲懇親会



▲ナゴヤドーム前キャンパス

支部だより

『岐阜県支部』だより

岐阜県支部 支部長 河村 彰雄 (昭和40年卒)

令和元年度通常総会を令和元年6月27日(木)午後6時から岐阜キャッスルインにて開催し、会員18名が出席したほか、来賓として名城大学建築同窓会長下地康夫氏、組織委員長安田博幸氏の出席を賜り盛況のうちに閉会いたしました。

母校の近況報告では、四月に小原農学部教授が初めての本学出身者として新学長に就任され、また、リチウムイオン電池を開発した名城大学理工学研究科の吉野彰教授は、先日「欧州発明家賞」を受賞されまして、カーボンナノチューブを開発した飯島澄男名城大教授とともに、最もノーベル賞に近い方として期待されているとの報告でした。

吉野教授は、この後、ノーベル賞を受賞され卒業生として大いに喜んだところだ。

このほか後輩諸君の多方面にわたる活躍と併せ、たのしく聞かせていただきました。

最近はとくに、「高齢者ドライバーの事故」や「年金二千万円不足問題」など高齢者に関するニュースが多く聞かれ、となく高齢者が問題視されているなかで、平均寿命を超えて元気に生きていくためには、まず心身の健康が第一ですが、気心の知れた仲間が集って酒を飲みかわすことができるのは何よりも心の健康の源になりますので、来年度の総会にも是非出席することを誓って閉会いたしました。

当支部も会員の減少と高齢化が進んでおりますが、今回は新しい会員の方(2名)が出席されましたので、今後の活躍を期待しております。

■『中国支部』だより

中国支部 支部長 今岡 忠實（昭和 45 年卒）

早いもので卒業して今年で50年になります。

中国支部の発足は平成3年12月。中国5県の卒業生40余名が広島市に結集しスタートしました。あれから28年経ちました。現在では会員も高齢化し年1回の総会への出席者も減少傾向にあります。加えて新たな入会者も望めない。こういった状況の中、支部を維持・存続させるため、あらゆる方策を探りながら支部運営に取り組んでいます。そんな中での活動の目玉は、1～2年毎に“ウオッチング〇〇”と銘打った一泊研修旅行をすることにしてありますが、昨年7月1日～2日に実施した“ウオッチング長崎”の報告をさせていただきたいと思います。



2019年11月24日にローマ教皇フランシスコが、広島と長崎を訪れるという報道を受ける中、異国文化が交差した町・キリシタンの町・そして我々の広島と同様被爆都市である長崎を今回の“ウオッチング”研修地と定め出発しました。現地では長崎県建築士事務所協会会長三好定和ご夫妻の案内も戴きながら長崎の建築を巡って来ました。主な研修地は鎖国時代ヨーロッパに開かれた唯一の窓口出島。16棟の復元建築物による19世紀当初の町並みが見所でした。

西坂。長崎は1570年ポルトガルとの貿易港として開港されて以来キリスト教の中心都市として栄えましたが、キリスト教徒の殉教の地となりました。現在公園として整備されたその地には、記念碑と日本二十六聖人記念館が建てられています。記念館の設計は、日本に初めてガウディを紹介した建築家・今井兼次氏です。（隣接する聖フィリッポ教会も同様）歴史文化都市長崎のシンボル国宝「大浦天主堂」は今回の主要な研修地でした。

夕暮れ迫る小雨の中の崇福寺の、国宝に指定されている本堂等、このりっぱな寺院には驚かされました。明の末期～清の初期（17世紀）の南支建築様式をそのまま輸入したもので、わが国では他に類例がないとのことでした。

その後場所を移し、三好ご夫妻と同席しての長崎の酒席は大いに盛り上がりました。

支部を維持存続させるため、建築同窓生以外で建築関連の業に携わっておられる方々に対しても、賛助会員として入会して頂くという方策を探りながら支部運営に取り組んでいる今日です。

■『城友会』だより

城友会 会長 赤尾 浩治（昭和 57 年卒）

まず最初に、今までの寄稿の依頼があったにもかかわらず、なかなかご期待に添えなかったことを関係者の方々に深くお詫び申し上げます。誠にすいませんでした。

依頼は支部活動等についてということであるが、当支部においては昨今特段の活動ができておらず書けることが特に無いので、全く検討外れかもしれないが私の当時や今を重ねて思いつくままに記す原稿になってしまうことを重ねてお詫びしたい。

私は昭和57年のⅡ部卒で、既に卒業して38年余が経ち今年度で現在の職も卒業の時期を迎える者である。

学校の記憶を思い出してみようにも出てこない。カンピー吸いながら講義する建築計画の〇〇先生、講義中に仕事して教室から退室命令した構造の〇〇先生ぐらいが印象に残っている。自分にも当時は「仕事は考え方が大切」という思いがあり、どうしてこうなるのか、どうすれば実現できるのか、そのために何をすればいいのか、一生懸命背伸びしようとしていた気がする。でも講義は子守唄になっていた。

一方学校以外の記憶となると、学校の東の坂を降りて行ったところのレストラン「キンコ」の記憶が深い。在学中は下宿していたため夜遅くまで入り浸り状態で、当時のママさんやマスターにはなかなか店を閉めることができず迷惑をかけた。我々のような夜学生の場合晩飯は9時過ぎになり、安い金で腹を満たせられたのは大変ありがたかった。入学当初は講義が終わってからの晩飯であったが、そのうち出席の手を挙げたら抜け出して店に向かっていた。その頃には悪友たる学友もできて、なんとなく徒党を組んで遊びまわるような生活になり、金曜日にもなると店で遅くまで何ということもなく過ごした後は大体麻雀になる。朝まで打ち続けてその日は夕方までの睡眠になる。でまたキンコにでかける。勝手にこれが青春?とも思っていた。

その学友にはクロス屋、大工、瓦屋、現場監督、普通の会社員、団体職員他、夜学ともなると昼間色々な仕事をしている人間が集まる。学校で学ぶ「建築」というくりは同じだが生活環境はそれぞれでそれぞれに人生を感じた。もう長く年賀状だけで会えてもいないが、懐かしむことができる思い出を与えてくれた学校という存在に感謝したい。

学校に通うことは更に友達もできて幸せなことである。「仕事」となると学んだこと以外のことも吐き出すことが必要になり大変である。今年に入って早々に楽しいはずの学校でありえない事件が報道された。いろんな事情はあったとは思いますがやっぱり残念なことである。とりとめのない内容で申し訳なかったが、ぜひとも学校生活を通じて楽しい時間が続くことを祈るばかりである。

『関西支部』だより

関西支部 支部長 大川 富美治（昭和41年卒）

まだ二月だというのにこの暖かさ、今年は春の訪れが早いかもしれません。卒業生の皆様、いかが御過ごしでしょうか。建築同窓会関西支部は昨年11月に京都で開催し、本部からも出席いただき楽しく過ごす事が出来ました。今年は奈良で開催いたします。法隆寺・慈光院あたりの見学を予定しております。会場は法隆寺の門前に位置し宿泊も可能です。関西支部以外の方の出席もお待ちしております。卒業生の皆様が御健康で過ごされる事をお祈りしております。



建築同窓会賞

建築同窓会は、学部卒業生及び大学院修了生の優秀者に建築同窓会賞を贈り表彰しています。受賞者は、各研究室が表彰候補者を選出し、学科より同窓会に推薦して決定しました。下記の受賞者には、学位記授与式にて建築同窓会会長より表彰状を授与します。

令和元年度同窓会賞受賞者

佐藤 宏(生田研)	森 亮太(谷田研)	川北 翔(松田研)
福留 悠史(武藤研)	高柳 直角(吉永研)	辻本 雄也+堀 至希(寺西研)
阿知波 拓(佐藤研)	牧野 明日香(三浦研)	渡邊 響(米澤研)
小南 朝日(大塚研)	片柳 友里+藤本 達也(岡田研)	八木 知里(石井研)
佐合 政登史+鈴木 祐登+中澤 吉宏(高橋研)	鈴木 将太+溝渕 蓮(高井研)	

キャンパスニュース

2019年8月24日～8月31日の日程でタイのチュラロンコン大学から教員と学生(6名)が来校し、**2019年度国際専門研修プログラム「建築都市デザイン交流研修 International Workshop on Green Urbanism (IWGU) 2019」**が開催されました。
(<http://www.ra.meijo-u.ac.jp/news/1433/>)

令和元年度 名城大学建築学科 学科賞受賞者

卒業研究部門

最優秀論文賞(工学分野)	関 初音
〃	谷 哉汰・佐原 杏佳
最優秀論文賞(計画分野)	飯坂 敦輝
優秀論文賞(工学分野)	大久保 聡平・松井 星矢
〃	安田 千尋
〃	石川 舞花・佐藤 玲菜
〃	小田 彩花・加藤 淳
〃	高橋 和也・間瀬 圭祐
〃	大市 啓矢
優秀論文賞(計画分野)	樋口 大晟
〃	鈴木 将太
〃	半澤 龍

卒業制作部門

最優秀賞	半澤 龍
優秀賞	久保 響子
〃	加藤 駿一
アーキテクト賞	奥村 匠真
奨励賞	飯田 兼都
〃	水谷 匠磨
〃	大田 弥憲
〃	澤田 留名
環境賞	近藤 水晶
構造賞	川村 航大

名城大学建築同窓会ホームページのご案内

名城大学建築同窓会ではホームページを随時更新しております。

新鮮な建築同窓会活動の状況やキャンパス内の様子などの情報を配信しております。

情報発信のツールとして同窓会、建築学科、学生の皆さまにさまざまな情報の橋渡しができるよう

充実させて行きたいと思いますので多くの皆様にアクセスしていただきます様お願い申し上げます。

建築同窓会 会報・名簿・IT委員会

建築同窓会 名城大

検索



建築学科教職員

教 授	環 境 設 備	岡 田 恭 明 ○	准 教 授	建 築 計 画	谷 田 真 ○
〃	建 築 計 画	鈴 木 博 志	〃	建 築 材 料	平 岩 陸
〃	建 築 計 画	高 井 宏 之	〃	歴 史 意 匠	三 浦 彩 子 ○
〃	建 築 計 画	生 田 京 子	〃	建 築 構 造	大 塚 貴 弘
〃	建 築 構 造	武 藤 厚	〃	建 築 構 造	高 橋 広 人
〃	建 築 材 料	寺 西 浩 司	〃	建 築 構 造	松 田 和 浩
〃	環 境 設 備	石 井 仁	助 教	歴 史 意 匠	米 澤 貴 紀
〃	環 境 設 備	吉 永 美 香	〃	建 築 計 画	佐 藤 布 武
〃	環 境 計 画	吉 久 光 一			

2020年3月末現在 ○印は名城大学卒業生

就職情報

就職・進路の動向

寺西 浩司（就職・進路支援委員）

1.はじめに

建築業界の求人状況は、景気に少し陰りが見えてきた感があるとはいえ、引き続き堅調に推移しており、依然として、希望の企業に学生が就職しやすい状況にあります。一方、就職活動のスケジュールに関しては、経団連の就職協定が廃止され、採用ルールがなくなってから、就職活動時期の前倒しに歯止めがかからない状況になってきています。本年度の様子を見ると、夏休み中に、1dayインターンシップという形で企業説明会を開催し、学生をいち早く囲い込んで内々定を出し、学生を確保しようとする企業の動きが顕在化してきています。就職活動は、少し前まで、3年生の年が明けてから始まっていましたが、今は実質的に3年生の夏休みからスタートする状況になってしまっています。これは、本来であれば一番充実している時期に、学生が学業やその他の学生生活に専念できないという点で、大変残念な状況にあるといえます。

2.就職先の状況

平成31年度卒業生の就職先は、ゼネコンやサブコンなどの総合建設業が3割、ハウスメーカーや工務店などの住宅産業が3割、設計事務所や官公庁を含むその他の業種が3割弱程度の比率になっています。また、これまでと同様に、総合建設業と住宅産業が全体の過半数を占めており、その比率は、昨年度、本年度にかけてより高くなってきています。建築学生の就職先の裾野は広く、多様な業種に就職先がありますが、最近の就職活動では、マイナビやリクナビなどの就活サイトにほぼ依存して就職先を探すので、このようにわかりやすい業種に就職先が集中してしまっていることが考えられます。総合建設業や住宅産業に必ずしも適性のない学生もいるものと考えられますので、今後は、広範な業種に就職先があることを学生にさらに周知していきたいと考えています。

3.大学院への進学

建築学科の大学院進学率は、このところ、他大学への進学も含めて10%程度で推移しています。また、構造・材料・環境系などのエンジニアリング分野の学生の進学が特に少なくなっており、大学院進学の意義と魅力を学生にどのように伝えるかに苦慮しているところです。

なお、今年から、1級建築士の受験資格が改正され、大学院在学中に試験を受けることが可能になります。大学院生の就職活動時や就職後に、1級建築士試験に合格していることが大きなアドバンテージになることは容易に推測されます。大学院生が在学中の時間を有効に活用して1級建築士試験に合格することは大変喜ばしいことではありますが、その一方で、建築士の受験勉強だけに心を奪われず、大学院本来の勉学・研究に打ち込めるように担当教員が上手に指導することも、今後の課題になるものと思われます。

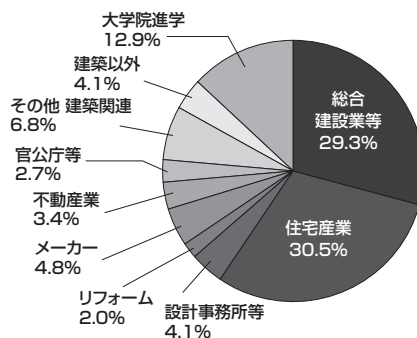


図1 平成31年度の卒業生(学部)の就職先(N=147)

平成30年度事業報告

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

①総務委員会

1総務委員会

- 1) 学内行事の学位記授与式には学生会員に対して支援をいたしました。
- 2) 会議の開催 通常総会 (6/10)
役員会開催 (計10回)
正副会長会 (計1回)
評議員会 (5/18)
- 3) 建築同窓会活動への協力支援を実施いたしました。
- 4) 第24回情報交流会 (平成30年11月17日開催) への支援をしました。
- 5) 学内各行事への参加並びに協力金支出等、支援をしました。

- 7/20 建築デザインI作品講評会
11/7 学年横断型講評会
3/20 学位記授与式、卒業祝賀パーティ

②財政委員会

- 平成30年 4月 2日 1年生オリエンテーションにて会費振込依頼
- 9月 20日 第1回財政委員会開催
- 10月 11日 会費振込依頼・交流会案内発送 平成29年度卒業生 148通
15日 会費振込依頼・交流会案内発送 1年生・保護者様 102通
会費振込依頼・交流会案内発送 2年生・保護者様 79通
17日 会費振込依頼・交流会案内発送 3年生・保護者様 90通
会費振込依頼・交流会案内発送 4年生・保護者様 87通
19日 会費振込依頼・交流会案内発送 会員・新会員 184通
26日 会費振込依頼・交流会案内発送 会員・新会員 152通
交流会案内発送 永年会員 37通
29日 交流会案内発送 永年会員 19通
会費振込依頼・交流会案内発送 会員・新会員 238通
- 1月 17日 第2回財政委員会開催
- 3月 20日 名城大学建築学科卒業祝賀会にて会費振込依頼
- 27日 2年生・3年生・4年生ガイダンスにて会費振込依頼
- 年会費納入のお礼状発送 200通

③事業・経済交流委員会

- 1) 第24回情報交流会を開催致しました。
平成30年11月17日(土) 名城大学 天白キャンパスにて開催。
AIRHOUSE 桐山 啓一様による講演
参加総数93名(会員49名+招待者22名+学生22名)

④会報・名簿・IT委員会

- 1) 建築同窓会会報(147号-A4版)を2,000部発行しました。
- 2) 郵送希望会員、会費納入者(903人)に郵送。
23回生(S51卒)、28回生(S56卒)127人含む。
- 3) 名簿の追加、訂正。
- 4) ホームページの更新。

⑤組織委員会

- 平成30年 6月29日(金) 第1回組織委員会
新役員顔合わせ、理工・建築同窓会総会の報告

平成30年度決算報告

(単位:円)

	項目	予算額	決算額	備考
収入の部	建築同窓会年会費	690,000	678,000	年会費116名(うち新祝賀会、B30永年会員会費11名)
	学生会員会費	900,000	900,000	学生会員(H29卒含む)90名
	事業収入	500,000	410,000	情報交流会参加費51名、招待者祝い金
	理工同窓会援助金及び学生会員援助金	280,000	307,300	
	寄付金	10,000	95,000	協賛金等
	利子及び雑収入	1,000	13	利子(元帳+各委員会)等
	収入合計(A)	2,381,000	2,390,313	

(単位:円)

	項目	予算額	決算額	備考
支出の部	総務委員会	540,000	415,920	
	学科支援金	300,000	145,000	建築学科への支援金、卒業式典援助金
	会議費	120,000	180,000	評議員会、役員会、正副会長会
	交際費	40,000	61,000	他会お祝い金、慶弔費
	運営費	80,000	29,920	通信費等
	財政委員会	210,000	163,277	
	郵送費	100,000	105,932	会費振込依頼、お礼状発送費
	印刷費	50,000	800	同窓会封筒等印刷
	運営費	60,000	56,545	オリエンテーション、ガイダンス等打合せ、備品費等
	事業・経済交流委員会	530,000	332,466	
	情報交流会費	500,000	329,703	情報交流会会場費等
	事業費	20,000	0	見学会、講演会等
	運営費	10,000	2,763	通信費、備品費等
	会報・名簿・IT委員会	840,000	801,258	
	会報印刷費	350,000	333,720	会報等案内印刷
	会報郵送費	290,000	282,279	会報郵送等
	名簿調査作成費	50,000	50,000	名簿調査
	HP管理費	140,000	132,829	ドメイン更新、HPメンテナンス
	運営費	10,000	2,430	通信費、備品費等
	組織委員会	210,000	128,820	
	支部支援・設立準備費	110,000	84,000	中国、岐阜、名古屋支部
	旅費交通費	60,000	28,820	各支部総会旅費
	運営費	40,000	16,000	
	予備費	51,000	0	
	支出合計(B)	2,381,000	1,841,741	
	当期収支差額(A)-(B)	0	548,572	

(単位:円)

財産の部	平成30年度期首財産(平成30年4月1日)前年度繰越金		
	周年事業積立金(H25~H29)	1,200,000	2,816,058
	活動準備金	1,616,058	
	平成30年度期末財産(平成31年3月31日)次年度繰越金		
	周年事業積立金(H25~H29)	1,200,000	3,364,630
	周年事業積立金(H30)	100,000	
	次期活動準備金	2,064,630	

平成30年度会計報告承諾

名城大学建築同窓会30年度(2018年)会計報告書を帳簿、領収書等により監査したところ適正であることを認めます。

平成31年4月25日

監事 岡野 廣海

監事 山中 弘

平成31年度事業計画

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

① 総務委員会

- 1) 学内行事の学位記授与式には学生会員に対して援助を実施。
- 2) 会議の開催
 - ・通常総会開催 令和元年6月9日(日) 午前9時30分～10時20分
天白キャンパス共通講義棟南館S504教室
 - ・役員会開催 7～8回を予定 総務委員会 1～2回開催
 - ・評議委員会開催 令和元年5月9日(木) 校友会館第1会議室 午後7時00分
 - ・正副会長会議 1～2回開催
- 3) 学内各行事への参加と協力支援・協賛等で、同窓会と学内の連携強化を図る。
- 4) 第25回情報交流会への支援。
- 5) 卒業生並びに評議員との連携強化に向けた同窓会情報の伝達及び連絡網充実を図る。
- 6) 慶弔に関する事務。

② 財政委員会

- 1) 前年に引き続きガイダンスにて学生会員へ会費の納入をお願いする。
- 2) 同窓会として会費の納入と共に在校生にプライバシーポリシーによる学生の名簿も充実する取り組みをする。
- 3) 会員への年会費納入案内を発送する。
60歳以上の会員の方に永年会費のご案内並びに納入をお願いする。
- 4) 学生会員・保護者様へ会費納入案内を発送する。
- 5) 卒業生(30年度)へ会費納入案内を発送する。
- 6) 会費納入会員へ礼状ハガキを発送する。
- 7) 財政委員会を年2回程度、開催する。

③ 事業・経済交流委員会

- 1) 第25回情報交流会開催予定
令和元年10月26日(土) 名城大学ナゴヤドーム前キャンパスにて開催予定。

④ 会報・名簿・IT委員会

- 1) 建築同窓会会報(148号～A4版)を2,000部発行。
- 2) 在学生会員に配布。郵送希望会員、会費納入者に郵送。
24回生(S52卒)、29回生(S57卒)含む。
- 3) 名簿の追加、訂正。
- 4) ホームページの更新。

⑤ 組織委員会

- 2019年 6月 第1回組織委員会
新役員顔合わせ
- 2019年 8月 第2回組織委員会
理工・建築同窓会総会の報告
- 2019年10月 第3回組織委員会
情報交流会開催について
- 2020年 3月 第4回組織委員会
2019年度活動報告及び2020年度活動計画について

平成31年度予算

(単位:円)

項目	予算額	備考
収入の部		
建築同窓会年会費	690,000	年会費 3,000円×180名 永年会費 30,000円×5名
学生会員会費	900,000	学生会員会費 10,000円×90名
事業収入	400,000	情報交流会参加費等
理工同窓会援助金及び学生会員援助金	280,000	
寄付金	10,000	
利子及び雑収入	1,000	
収入合計(A)	2,281,000	

(単位:円)

項目	予算額	備考
支出の部		
総務委員会	540,000	
学科支援金	300,000	建築学科への支援金・卒業式典援助金
会議費	120,000	評議員会、役員会、正副会長会
交際費	40,000	他会お祝い金、慶弔費
運営費	80,000	通信費等
財政委員会	210,000	
郵送費	100,000	会費振込依頼、お礼状発送費
印刷費	50,000	同窓会封筒等印刷
運営費	60,000	オリエンテーション、ガイダンス等打合せ
事業・経済交流委員会	430,000	
情報交流会費	400,000	情報交流会会場費等
事業費	20,000	見学会、講演会等
運営費	10,000	備品費等
会報・名簿・IT委員会	840,000	
印刷費	350,000	会報等案内印刷
郵送費	290,000	会報郵送等
名簿調査作成費	50,000	名簿調査
HP管理費	140,000	ドメイン更新、HPメンテナンス
運営費	10,000	通信費、備品費等
組織委員会	210,000	
支部支援費	110,000	中国、関西、岐阜、名古屋支部
旅費交通費	60,000	各支部総会旅費
運営費	40,000	
予備費	51,000	
支出合計(B)	2,281,000	
当期収支差額(A)-(B)	0	

(単位:円)

令和元年度期首財産(平成31年4月1日)前年度繰越金	
周年事業積立金(H25～H30)	1,300,000
周年事業積立金(R1)	100,000
活動準備金	1,964,630
	3,364,630

2020年 建築同窓会総会のご案内

令和2年度の建築同窓会の総会を下記により開催いたします。多くの同窓生のご参加をお待ちしております。

●とき 2020年 6月21日(日)

●ところ 名城大学 天白キャンパス内

9:00～建築同窓会総会 共通講義棟南館S504

10:30～記念講演会 共通講義棟北館 名城ホール

11:45～理工同窓会総会 共通講義棟北館 名城ホール

13:00～懇親会 タワー75 15階レセプションホール

詳細につきましては、下記の理工同窓会ホームページにおいてもごらんになれます。

理工ホームページmeijyo-rikou-dousoukai.jp/

第26回 情報交流会開催(予定)のご案内

第26回情報交流会を開催(予定)いたします。多くの同窓生のご参加をお待ちしております。

●とき 2020年 6月6日(土)

●ところ 名城大学 天白キャンパス内

第25回情報交流会も令和元年10月26日に盛大に開催することができました。会員各位のご協力に感謝いたします。第26回は上記の日程で予定しております。詳しくは建築同窓会HPにてご案内します。

名城大学建築同窓会 事業・経済交流委員会

名城大学建築同窓会会則

第1章 総 則

- (名称)
第1条 本会は名城大学建築同窓会と称する。
- (事務所)
第2条 本会の事務所は名城大学理工学部建築学科内に置く。
- (支部)
第3条 1. 本会は役員会の承認を得て原則として地域単位とする支部を設置することができる。
2. 支部細則は必要に応じ役員会の議決を経て設けることができる。
- (目的)
第4条 本会は会員相互の親睦を図ると共に地域社会への貢献、文化の振興を図り名城大学及び名城大学建築学科の隆盛発展に寄与することを目的とする。
- (事業)
第5条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。
1. 会員名簿の整備
2. 会報の発行及びホームページに会報の情報掲載
3. 懇親会、見学会、講演会及び研究会等の開催。
4. 学生会員に対する援助
5. その他本会の目的を達成するために必要な事業。

第2章 会 員

- (組織)
第6条 本会は会員、特別会員、名誉会員を以て組織する。
- (会員の資格)
第7条 本会会員となる資格は次の各項の定めるところによる。
1. 会 員 (1) 名古屋専門学校応用物理建築分科卒業生。
(2) 名城大学理工学部建設工学科建築分科卒業生。
(3) 名城大学理工学部建築学科卒業生。
(4) 名城大学大学院工学研究科建築学専攻修了生。
(5) 名城大学大学院理工学研究科建築学専攻修了生。
(6) 前(1)～(5)項に籍を置く者で役員会で承認した者は会員に準ずる。
2. 名誉会員 本会に功勞のあるもので総会の承認するもの。
3. 学生会員 前1項の(3)、(4)在籍者。
4. 特別会員 名城大学理工学部建築学科の教職員。
5. 賛助会員 個人または団体で本会の事業を賛助するもので評議員会の承認を得たもの。
- (会費)
第8条 1. 年会費は3,000円とする。納入した会費は返却しない。
2. 60才以上の会員が永年会費30,000円を納入した場合は、以降の年会費を免除する。
3. 学生会員は、卒業後5年迄の会費10,000円を納入する。

第3章 総 会

- (総会の召集)
第9条 1. 通常総会は毎年1回事業年度終了後3ヵ月以内に会長が召集する。
2. 臨時総会は評議員会または役員会で必要と認めたとき会長が召集する。
- (総会の通知)
第10条 総会の召集はその2週間前までに日時・場所を示した文書、又は校友会会報をもって会員及び名誉会員に通知しなければならない。
- (総会の議決事項)
第11条 総会では次の事項を議決する。
1. 事業報告、収支予算ならびに財産目録の承認に関する事項。
2. 事業計画及び予算に関する事項。
3. 重要な財産の取得、処分に関する事項。
4. 評議員会、役員会で必要と認めた事項。
5. 評議員会における選出役員を承認する事項。
- (総会の議決)
第12条 1. 総会の議事は出席会員の過半数の同意で成立する。
2. 議事の議決同意が可否同数の時は議長が決める。
3. 総会の議長は出席会員の中から選任する。
- (議事録)
第13条 1. 議長は総会の議事について議事録を作らなければならない。
2. 議長は議事録署名人を出席会員の中から選任する。

第4章 役員及び会議

- (役員)
第14条 1. 本会には次の役員を置く。
(1) 名誉会長 1名 (7) 常任幹事 若干名
(2) 会 長 1名 (8) 委員長 専門委員会
(3) 副会長 6名以内 (9) 会 計 1名(補佐1名)
(4) 監 事 2名
(5) 支 部 長 各支部1名
(6) 学内幹事 若干名
2. 本会には相談役及び参与を置くことができる。
相談役は役員会に諮って会長が推薦する。
参与は本会の役員であった者の中から会長が推薦する。
相談役、参与は本会の諮問に応ずる。
- (役員の選出)
第15条 1. 会長、副会長、会計、監事は評議員会の推薦により選出する。
2. 名誉会長は建築学科長がこれにあたる。
3. 支部長は支部を構成する正会員の中から選出する。
4. 学内幹事は学内の会員及び特別会員の中から互選により選出する。
5. 常任幹事は会長の推薦により会員の中から選出する。
- (役員の職務)
第16条 1. 会長は本会を代表し会務を総理し評議員会役員会等の議長となる。
2. 副会長は会長を補佐し会長に事故ある時はその職務を代理する。
3. 支部長は支部を代表し支部の会務を掌理する。
4. 学内幹事は学科内の意見を集約し会との疎通を図る。
5. 常任幹事は会長の補佐として各事業を援助する。
6. 委員長は各専門委員会を代表し、委員会の会務を掌理する。
7. 会計は本会の会計事務を行う。

8. 監事は年1回以上本会の事業及び会計監査を行いその結果を総会に報告する。
- (役員の任期)
第17条 1. 役員の任期は2年とする。
2. 補欠による役員の任期は前任者の残任期間とする。
3. 役員は再任を妨げない。
4. 役員は任期中に退任しようとするときは評議員会の承認を必要とする。
- (役員会)
第18条 1. 役員会は本会の運営を円滑にするための執行機関である。
2. 役員会は名誉会長、会長、副会長、監事、各支部長、常任幹事、学内幹事、各委員長、会計、会計補佐によって構成する。尚 相談役、参与については会長が必要に応じ出席を求める。
3. 役員会は役員の過半数の出席をもって会議が成立し、出席者の過半数の同意がなければ議決することができない。尚出席出来ない時は委任状を議長宛に提出し、議決権行使することが出来る。
- (専門委員会)
第19条 1. 専門委員会は第4条の目的と第5条の事業を円滑に達成するために評議員及び会員の中から若干名を選出し、これを構成する。
2. 専門委員会は次による。
(1) 総務委員会 (5) 組織委員会
(2) 財政委員会 (6) その他必要となる委員会
(3) 事業・経済交流委員会
(4) 会報・名簿・IT委員会

第5章 評議員及び評議員会

- (評議員)
第20条 1. 本会は会員の卒業年度の代表として評議員を選出する。
2. 評議員は評議員の推薦による。又は各期会員の中から選出する。
- (評議員の任期)
第21条 1. 評議員の任期は2年とし、再任を妨げない。
2. 評議員が欠けた場合の補充評議員の任期は前任者の残任期間とする。
- (評議員会)
第22条 1. 評議員会は役員及び各期評議員で構成し会長が必要と認めた場合に会長がこれを招集する。
- (評議員会の開催)
第23条 1. 評議員会は定例評議員会と臨時評議員会とする。
2. 定例評議員会は、毎年総会の1箇月前とする。
3. 臨時評議員会は役員会で必要と認めたとき、または評議員の3分の1以上の要請があったときに開催する。
4. 評議員会の招集は議案を付して10日前までに通知しなければならない。
- (評議員の議決)
第24条 1. 評議員会においての議事の議決は総会に準ずる。
- (評議員の審議事項)
第25条 1. 評議員会の審議事項は、次の各号に定めるところによる。
2. 総会の付議事項に関すること。
3. 役員選出に関すること。
4. その他必要と認める重要事項。

第6章 資産及び会計

- (基本資産)
第26条 基本資産は会費、寄付金及び助成金でこれを構成する。
- (経費の支弁)
第27条 本会の経費は基本資産ならびに事業から生ずる収入でこれを支弁する。
(事業年度)
第28条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。
(特別会計)
第29条 本会に特別会計を設けることができる。

第7章 雑 則

- 第30条 本会則は総会の議決によって変更することができる。
第31条 本会は会務運営及び第5条の事業遂行のために必要な委員会及び部会を設けることができる。

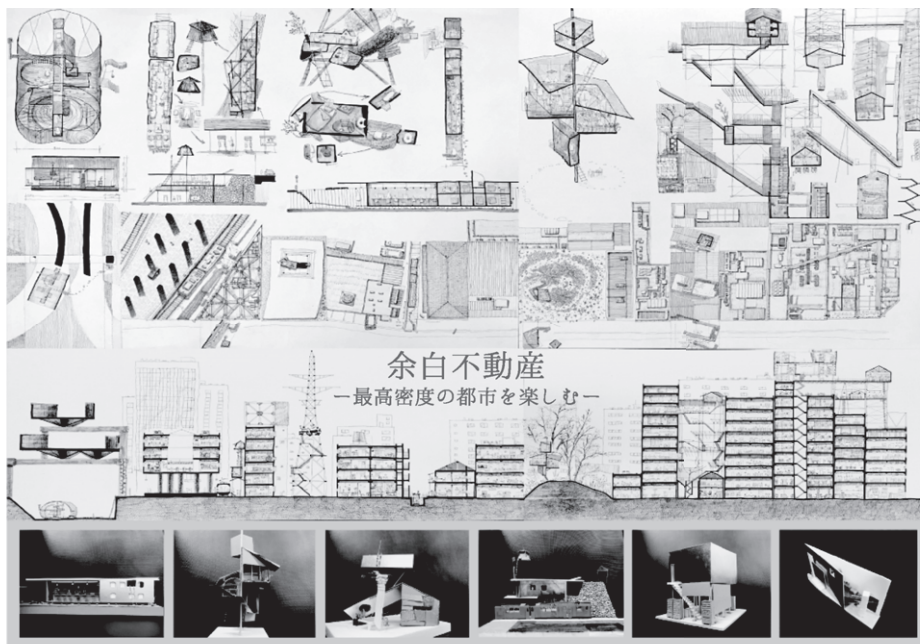
附 則

- (1) 本会則は、昭和38年9月22日より施行する。
(2) 昭和45年 9月14日会則一部改正及び訂正施行する。
(3) 昭和51年 8月 7日会則一部改正施行する。
(4) 昭和57年 9月12日会則一部改正及び訂正施行する。
(5) 昭和60年 9月 8日会則一部改正及び訂正施行する。
(6) 平成元年 9月17日会則一部改正及び訂正施行する。
(7) 平成 5年 9月18日会則一部改正及び訂正施行する。
(8) 平成 6年 9月25日会則一部改正及び訂正施行する。
(9) 平成 7年 9月24日会則一部改正施行する。
(10) 平成 8年 9月21日会則一部改正及び訂正施行する。
(11) 平成10年 9月20日会則一部改正及び訂正施行する。
(12) 平成12年10月 1日会則一部改正及び訂正施行する。
(13) 平成13年 9月30日会則一部改正及び訂正施行する。
(14) 平成18年 9月10日会則一部改正及び訂正施行する。
(15) 平成19年 9月30日会則一部改正及び訂正施行する。
(16) 平成20年 9月28日会則一部改正及び訂正施行する。
(17) 平成23年 6月19日会則一部改正及び訂正施行する。
(18) 平成28年 6月12日会則一部改正及び訂正施行する。

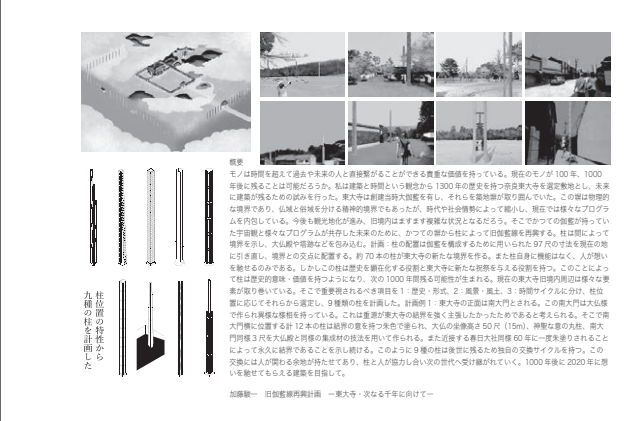
表紙・裏表紙解説

表紙：雑誌『近代建築』
別冊掲載作品(半澤 龍)

仕事も生活も上手く行かず、身動き取れないような息苦しい都市に立つ1人の男性。心の拠り所のない漂流する彼を境界人と名付けた。彼の全てを一晚、一身に受け止める建築を設計する。その建築は、ビルの隙間や高架下、線路脇のデルタ地帯など都市の副産物を敷地とし、余白不動産と名付けた。そこはあまり整備されていない「裏」の空間であり、でもそれが悪い訳ではなく、むしろ都市の原風景の一つとして野性味のある魅惑的な場所だと捉えた。
2020.1.30.
私の暮らす名古屋は、リニア開通に向けて名駅、栄の大幅な容積率緩和を発表した。



裏表紙:日本建築学会巡回作品(久保 響子)



裏表紙:愛知建築士会提出作品(加藤 駿一)

※題字 故 中田 武教授

令和元年度役員

名誉会長	岡田 恭明 (建築学科長)	参 与	鈴木 寛 (昭和34卒)	城友会会長	赤尾 浩治 (昭和57卒)
会 長	下地 康夫 (昭和47卒)	参 与	安藤 洋 (昭和41卒)	総務副委員長	鈴木 賢三 (昭和55卒)
副会長(総務)	河合 秀一 (昭和48卒)	総務委員長	大橋 裕一 (昭和56卒)	財政副委員長	駒 秀 夫 (昭和45卒)
副会長(財政)	磯野 信秀 (昭和47卒)	財政委員長	稲垣 友彦 (平成6卒)	事業・経済副委員長	岡本 裕太 (平成19卒)
副会長(事業・経済)	鈴木 千春 (昭和54卒)	事業・経済交流委員長	伊藤 正樹 (平成14卒)	会報・名簿・IT副委員長	深谷 光秀 (昭和53卒)
副会長(会報・名簿・IT)	安井 真 (昭和48卒)	会報・名簿・IT委員長	三宅 賢二 (平成4卒)	組織副委員長	佐藤 勝巳 (昭和59卒)
副会長(組織)	丸澤 良彦 (昭和52卒)	組織委員長	安田 博幸 (昭和52卒)	岐阜支部長	河村 彰雄 (昭和40卒)
監 事	岡野 廣海 (昭和50卒)	会 計	伊藤 茂 (昭和63卒)	名古屋支部長	大井 俊明 (昭和47卒)
監 事	山中 弘 (昭和53卒)	学内幹事	大塚 貴弘 (―――)	尾張東支部長	駒 秀 夫 (昭和45卒)
相 談 役	加藤 哲也 (昭和38卒)	常任幹事兼相談役	石川 豊 (昭和47卒)	西三河支部長	深谷 光秀 (昭和53卒)
相 談 役	廣瀬 敏郎 (昭和44卒)	常任幹事	鈴木 善徳 (昭和43卒)	東三河支部長	山本 利州 (昭和37卒)
相 談 役	岩崎 征一 (昭和41卒)	常任幹事	谷田 真 (平成7卒)		
相 談 役	小木曾 森司 (昭和48卒)	常任幹事	三浦 彩子 (平成8卒)		
参 与	秦 和 久 (昭和30卒)	常任幹事	杉村 竹次 (昭和48卒)		
参 与	坂崎 日支夫 (昭和35卒)	常任幹事	荒木 衛 (昭和58卒)		

2019年度 名城大学建築学科卒業制作活動記録 (日本建築学会巡回作品、愛知建築士会提出作品)



岐阜県揖斐川町夜叉ヶ山

1100mある山の丘陵に、一度も枯れたことのないという池がある。

この山にある全てが青く澄んだ池を守り、一度訪れた人の記憶に深く根付く雄大な自然の風景を生み出している。また、寛永時代には池の存続を背景とした「龍神伝説」が作られ、年に一度村人たちが演じる舞台という形で、今もなお後世に語り継がれている。私は、神秘的な美しさ・力強さを持つこの池に魅了され、一年という時をかけた山の生態・環境を調査し、建築が池の存続に寄り添う役割を担えないかと考えた。そこで、ここを訪れる人が夜叉ヶ山特有の些細な環境変化を感じ取ることで「自然体感装置」でありながら、年に一度村人たちが龍神伝説を演じる「舞台」ともなる装置を提案する。

池の成り立ちについては、谷がせき止められて水が溜まったことが始まりと考えられている。直径約80mの楕円型で、最深部では約7mの滑らかな底面を持つ。枯れない理由は、急な崖が上昇気流を起こして雨を降らせたり、強固なチャートに囲まれることで、池の水がむやみに外へ流れ出ないことにある。

敷地選定については、まず山全体の植生分布を読み取る。そして、植生の転換地点・植生の特徴と、伝説の物語を加味しながら、山道沿いの5つの敷地を選定する。次に、植生の特徴・環境（土壌・水位・湿度）から要素を抽出し、それぞれの特徴（葉のつき方、幹の質感・形態など）を僅かに誇張し、環境変化に「気づく」ような装置を挿入する。また、装置の主要部分を山にある自然素材から立ち上げること、本来の山の自然環境を維持しつつ、山と共に経年変化する土着的な装置となる。例）site5: 年間水位差1メートルある夜叉ヶ池の中に飛び石をしつらえる。水位が最も低い10月にのみ舞台が立ち現れ、池の中に沈む時は水中生物の住処となる。

本卒業設計は、土地の植生や環境因子に着目し、しなやかさやはかなさ・力強さを持つ自然と共に、四季折々と姿を変えながら共存する建築の提案である。50年・100年後に伝承者としての演者がいなくなったとしても、夜叉ヶ山の体感装置として役割を担い、夜叉ヶ池がこの地にとって尊く守るべきであることを継承する舞台となることを期待する。



site1



site2



site3

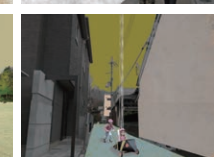


site4



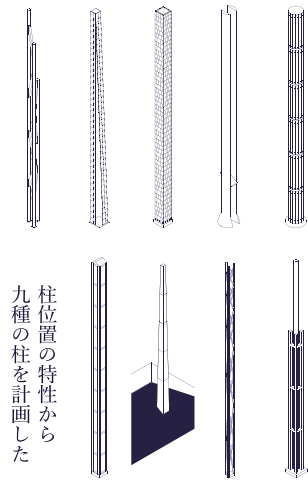
site5

優秀賞(日本建築学会巡回作品) 久保 響子 夜叉ヶ池継承舞台～自然環境に呼応した体感装置の提案～



概要

モノは時間を超えて過去や未来の人と直接繋がることができる貴重な価値を持っている。現在のモノが100年、1000年後に残ることは可能だろうか。私は建築と時間という観念から1300年の歴史を持つ奈良東大寺を選定敷地とし、未来に建築が残るための試みを行った。東大寺は創建当時大伽藍を有し、それらを築地堀が取り囲んでいた。この堀は物理的な境界であり、仏域と俗域を分ける精神的境界でもあったが、時代や社会情勢によって縮小し、現在では様々なプログラムを内包している。今後も観光地化が進み、旧境内はますます複雑な状況となるだろう。そこでかつての伽藍が持っていた宇宙観と様々なプログラムが共存した未来のために、かつての堀から柱によって旧伽藍線を再興する。柱は間によって境界を示し、大仏殿や塔跡などを包み込む。計画：柱の配置は伽藍を構成するために用いられた97尺の寸法を現在の地に引き直し、境界との交点に配置する。約70本の柱が東大寺の新たな境界を作る。また柱自身に機能はなく、人が想いを馳せるのみである。しかしこの柱は歴史を顕在化する役割と東大寺に新たな祝祭を与える役割を持つ。このことによって柱は歴史的意味・価値を持つようになり、次の1000年間残る可能性が生まれる。現在の東大寺旧境内周辺は様々な要素が取り巻いている。そこで重要視されるべき項目を1：歴史・形式、2：風景・風土、3：時間サイクルに分け、柱位置に応じてそれらから選定し、9種類の柱を計画した。計画例1：東大寺の正面は南大門とされる。この南大門は大仏様で作られ異様な様相を持っている。これは重源が東大寺の結界を強く主張したかったためであると考えられる。そこで南大門横に位置する計12本の柱は結界の意を持つ朱色で塗られ、大仏の坐像高さ50尺(15m)、神聖な意の丸柱、南大門同様3尺を大仏殿と同様の集成材の技法を用いて作られる。また近接する春日大社同様60年に一度朱塗りされることによって永久に結界であることを示し続ける。このように9種の柱は後世に残るため独自の交換サイクルを持つ。この交換には人が関わる余地が持たせてあり、柱と人が協力し合い次の世代へ受け継がれていく。1000年後に2020年に想いを馳せてもらえる建築を目指して。



柱位置の特性から
九種の柱を計画した

加藤駿一 旧伽藍線再興計画 一東大寺・次なる千年に向けて～

優秀賞(愛知建築士会提出作品) 加藤 駿一 旧伽藍線再興計画～東大寺・次なる千年に向けて～